

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている			
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・中国語系の観光客が増えている。福島県など東北地方の人も「メソメソしていてもどうしようもない」と観光に来てくれているようだ。ここ3か月の売上の前年比は115%程度となっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・7月の販売量は6月よりも2.5%ほど伸びており、前年比でも101.7%と微増だが伸びている。
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・気温の上昇とともに祭りの夏物浴衣関係が企業や一般消費者に売れている。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・観光客が少しずつ増えている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・7月に入り、宿泊客が増加している。飛行機による釧路への入込も前年比で10%アップしている。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・本州方面からの個人客や外国人客が堅調に推移しており、宿泊客数は増加傾向にある。一方で国内団体客は回復していない。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・需要を喚起するような大型の学会や大会、コンサートが開催された。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・管内への旅客数は航空機の座席供給量が増加したため、前年から20%ほど増えているとみられる。
		タクシー運転手	販売量の動き	・今月は各種イベントなどがあり、観光客の増加がみられたことから、3か月前と比較して、11.9%の売上増であった。前年比でも8%の伸びであることから、景気はやや良くなっている。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・夏商戦の新品に対する客の引き合いが良く、乗換えも以前よりも増えてきている。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・寒くなったり、暑くなったりと季節感がはっきりしない。夏は夏らしくということがなく、服装においても、季節の行事にしても中途半端になり、夏物の売行きが悪いなど消費行動にも影響している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・暑い夏になり、季節商材の売上が少しずつ上向き傾向にある。夏はイベントが盛んで来客数も多く、客も街に出るのが楽しみになり、活気づいている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・バーゲン月とあって売上増を期待していたが、スタートがバラバラだったこともあり、客の買物の様子が盛り上がっていない。買上単価も低く、2～3か月前の通常営業とほとんど変わらない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応が前と変わらない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・高速道路及び空港利用客の増加にともない、道内客及び外国人観光客がわずかながら増加傾向にあるが、地元客の来街者が前月に続き低迷している。夜型の飲食店を含めて、観光客相手の一部の業種のみ売上がアップしている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・観光土産店を経営しているが、北海道への入込が厳しい。東京のスカイツリーや九州新幹線に客が取られている様子がうかがえる。海外客も減少している。豪華客船が入港したが、予定人員が1000人以上のところ、600人ほどしか乗っていない。全体的に来客数が減っている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・東日本大震災及び近隣競合店の開店から一巡したものの、来客数減少の傾向が変わらない。依然として客単価の上昇は維持しているものの、来客数の減少を補えない構造が続いている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・計画停電の話題もあって、再び節約志向になってきている。

スーパー（役員）	来客数の動き	・ディスカウント競争などにより、ますますデフレ化が進んでいるため、来客数が分散傾向になっており、前年比で1～2%減少している状況が続いている。前年の東日本大震災の影響で、たばこがまだ前年比20%強の伸びを示している。また、北海道米の人气が高くなっていることで相場が上がっており、前年比で15%以上の伸びがみられる。一方、その他の商品については非常に良くない状況にある。商品単価が前年比99.5%、客1人当たりの平均買上点数が前年比99.8%となっており、客単価の前年比は101.2%となっている。	
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・景気が上向いてこない。本州はどうかわからないが北海道は一步遅れており、現在でも景気が悪い。	
家電量販店（経営者）	販売量の動き	・年明け以降、前年比で5割近い売上のダウンがみられる。過去5年の平均と比較しても3割近いダウンが続いている。	
家電量販店（店員）	お客様の様子	・7月後半は天候に恵まれ、冷蔵庫やエアコンがよく動いた。薄型テレビは相変わらず低迷している。	
乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・エコカー補助金の終了で、需要は落ち込むとみられることから、収益不足分を補えるか先行きが不安である。	
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金の締切りが迫っている割に、販売量が伸びてこない。	
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・夏休みに入り観光客の子供達が目立ってきた。また、日によっては団体客の外国人が半数以上を占める時もある。来客数は前年比で横ばいであるが、売上は前年比でマイナスとなっている。	
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・売上は前年並みとなった。夏向きのメニュー構成とキャンペーンが功を奏して来客数が増えたが、低価格メニューばかりとなった。外国人観光客が増えているようで、観光地や特定の業種では繁盛しているようだが、高級店に影響はほとんどない。	
スナック（経営者）	来客数の動き	・当地も観光シーズンに入り、多くの客が来ているようだが、飲食店街への観光客の入込は前年の東日本大震災があった時とあまり変わっていない。	
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・販売量の年間見込が前年比で107%と動きが早いため、やや良く感じられるが、前年は東日本大震災の影響があった数値のため、実態としては変わらない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・7月は暑かったが雨の日が少なかったため、タクシーの売上は前年よりも若干マイナスである。前年は東日本大震災と放射能問題の影響で、前々年と比べて大きくマイナスであったが、今年は前々年と比べてさらに大きな減収となった。	
タクシー運転手	販売量の動き	・過去3か月の状況からみると、当初は持ち直しの兆しを感じたが、今月に入ってから受注量、販売量の動きが停滞している。特に夜間の乗客数が伸び悩み、若干の下降線をたどっている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・注文数がほぼ前年並みとなっている。観光客が減り、イベント関係の客が増えている。	
観光名所（職員）	来客数の動き	・来場者は震災前の水準に戻りつつあるが、東南アジアを始めとした海外客の利用者が増加していない。ただし、3か月前に比べると、利用者は約3倍になっている。	
美容室（経営者）	お客様の様子	・旅行や外出の機会が増加しているようで、お出かけ前のおしゃれをするために来店する傾向が出てきている。しかしながら、3か月前と比べて格段に売上が増加する状況にはなっていない。	
住宅販売会社（従業員）	それ以外	・市場全体としては相変わらず高い契約率で推移している。これはマンション業者が供給を絞っていることが原因である。しかしながら、客の数が増えているわけではなく、事業会社が供給戸数を増やせる状況でもない。このような状態がずっと続いている。	
やや悪くなっている	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べると、売上自体は悪くない。ただし、当店の7月の売上は、年間のなかで12月と並ぶくらいの売上になるため、それを考慮すると、大変良くない状況である。客単価もやや落ちている。加えて、販売量はかなり落ち込んでいる。

	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・前年と異なり、7月1日と13日の2段階に分かれて夏物のバーゲンがスタートしたが、開始時期のずれの関係もあり、前半で需要を取れなかった商材がその後も尾を引いており、厳しい状態である。お中元の動きも前年比97%と厳しい状況である。	
	百貨店（売場主任）	単価の動き	・2月以降、買上客数の前年割れが続いている。客単価はほぼ前年並みか前年を上回って推移していたが、今月はセールの後ろ倒しの影響もあり、客単価も前年比97.4%と前年割れとなっている。	
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・来客数は増加しているものの、買上客数はマイナス傾向にあり、客の財布のひもが確実に固くなっている印象を受ける。	
	百貨店（役員）	来客数の動き	・7月下旬まで気温が上がらず、夏物が非常に厳しい。店舗への来客数そのものが減少している。前年は地上デジタル放送関連の最終駆け込みによる来客数の増加もあったとみられる。7月末に急激に暑くなった影響で多少の動きはあるものの、夏物は我慢する傾向にある。	
	スーパー（役員）	販売量の動き	・7月中旬までの低温続きにより、ジュース類、ビール類、乾麺、夏物の売上が軒並み前年の90%程度となっている。これから気温が上昇しても前年の売上までは戻らない。	
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・前年、前々年と、たばこの増税や東日本大震災によるたばこの欠品で仮需が発生していたが、すべての要素が一巡したことで、たばこの売上の減少が続いており、客単価が低下している。	
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・全体的に販売量が減少してきている。	
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・前年のアナログ放送の終了にともなうテレビの特需の反動が、3か月前から月を追うことになっており、7月がそのピークとなっているため、非常に悪い。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金が限度額となり、客の購買意欲も冷めてきている。	
	乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・ある程度の予測はしていたが、エコカー補助金の終了が近づくなか、駆け込み需要の受注が思った以上に少なく、イベント時の来場者も伸びていない。	
	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・新車販売市場は伸びているが、市販のカーナビ装着には目が行かず、純正のカーナビ装着が増加している。	
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・7月25日時点の来客数は、前年比で109.3%、前々年比で84.4%であった。3か月前の4月は、同じく25日時点の来客数が、前年比で261.0%、前々年比で107.9%であったことから、回復傾向がかなり鈍化してきており、比較時点によってはマイナスに転じている。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・前年の7月中旬以降、旅行エージェントがツアーを再開したことから回復傾向にあったが、今年は海外旅行の増加等に押され、前年比が落ち込んでいる。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・異常なドル安、ユーロ安、株安によって、客のムードが非常に悪くなっている。	
	悪くなっている	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・年金の支給月以外の期間はある程度売上が減少する傾向があるが、最近は関係なく、どの期間も悪い。老人が歩かなくなったことと、年金の引下げが要因とみられる。	
企業動向関連 (北海道)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・数か月前及び前年と比べて受注量が少し伸びている。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・本州地区の本格的梅雨明けにより猛暑になっており、飲料品、医薬品の出荷が順調である。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・前年と比べても、震災関連を除き、徐々に取扱量が増加している。景気の良し悪しの目安となる鋼材、コンテナ貨物が好調である。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・客の設備投資意欲が回復傾向にあり、第1四半期の受注量は好調であった。

	金融業（企画担当）	それ以外	・観光関連は、入込客数が東日本大震災前の水準に戻っている。設備投資は、医療福祉関連の新增設やメガソーラーの建設などで底堅い。建設関連では、震災復興需要もみられる。業種のバラツキはあるが、全体的には人手不足感も出てきている。	
	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・順調に受注が来ている。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・燃料価格の落ち着きが大きい反面、老舗建設業者の倒産が続いている。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・このところ鉄骨加工が活況で溶接材料を始め消耗資材も順調に出荷している。一部の溶接材料は品薄状態にある。	
変わらない	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・受注について、相手先企業の広がりが見られるほか、東日本大震災以降の受注増や原料確保のための工場、冷蔵庫等の新增設対応を行う企業が5～6社ほどみられる。節電や計画停電が提案されて、企業も節電や稼働時間等の対応を行っているが、節電や計画停電が実施されることになれば、地域の中小製造企業に大きな支障と損失が起り得る。	
	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注について変化がなく、この先にも、受注量が増えるような案件が見えてこない。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引、建物建築ともに、大きな動きはないが、多少上向き傾向にあるようにみられる。	
	司法書士	取引先の様子	・景気回復の兆しは一向に見えない。消費税の増税が強調され、総選挙も近いなどと報道されている状況で、一部には増税前の駆け込み需要もみられるが、全体の景気回復には至らず景気動向としては変化が見えない。	
やや悪くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・請負物件が減少している。新築関連の家具需要も低迷している。	
	建設業（従業員）	競争相手の様子	・建設工事の新規見積引き合いが少なく、工事の絶対量が少ないためか、入札になると、相変わらず低価格落札が続いている。	
	広告代理店（従業員）	それ以外	・毎年恒例のイベントの協賛金が企業から集まりづらくなっている。	
	司法書士	取引先の様子	・お盆前に完成予定の新築建物があるが、土地価格の下落の時期にもかかわらず取引は足踏み状態である。	
悪くなっている				
雇用関連	良く なっている	-	-	
(北海道)	やや良く なっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・パート、アルバイトに加えて、正社員の求人が増加しており、求人数が増加傾向にある。夏商戦における販売関連の求人の増加が下支えしたようである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・今月の求人の前年比は118%と、4～6月期の前年比130%に比べて落ち着き始めているものの、依然として増加傾向にある。飲食関連が変わらず元気なことに加えて、小売系の業種も特徴的に伸びている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・7月の募集広告の状況は、小売、飲食店で前年比250%超と大きく伸長している。ホテル関係も約2倍の伸びだったほか、医療、派遣、運輸運送もプラスで、全体で前年比150%と今期最高の売上となった。ホテル、飲食店の大幅増は、大型イベントの開催や観光シーズンを迎え、交流人口、観光客が例年以上に増えた結果とみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は1.9%増加し、29か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も14.5%増加し、29か月連続で前年を上回った。
変わらない		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・なかなか就職先が決まらない人に加えて、失業者が追加され、求職者数が増えている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・農業の収穫期に向かって、1次加工、2次加工の人手不足感が強まり、派遣及び直接募集に拍車がかかっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・観光客の回復が身近に感じられ、それによる経済効果は大きい。ただし、地元産業は弱含みの印象である。自力で経済が活性化することが望ましいが、その勢いは感じられない。

	職業安定所（職員）	それ以外	・管内の有効求人倍率は0.48倍と前年を0.07ポイント上回ったが、全国平均はもとより、全道平均よりも0.03ポイント低く、依然として低い水準である。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・6月の月間有効求人数は前年比で増加しているものの、内訳をみるとフルタイム求人数よりもパート求人数が上回っているなど、求人全体に占めるパート求人の割合が高くなっている。フルタイムでの就職を希望する求職者が多いなか、パート求人が増えても就職に結びつかないため、厳しい状況は変わっていない。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・6月の新規求人数は前年比で12.5%の増加となった。新規求職者数は前年比で7.8%の減少となった。月間有効求人倍率は0.64倍となり、前年の0.47倍を0.17ポイント上回った。新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は41.7%と求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチが少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-